

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第8回 「つくりもん」の絆
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-05-09
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6235

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第8回

連載の第5回で、大阪の国立民族学博物館で開催された特別展に、山陰の「一式飾り」が出品されたことに触れたが、この博物館で「平田一式飾り」が常設展示されていることを、読者の皆さんはご存じだろうか。

「平田一式飾り」があるのは日本の祭りのコーナー。そこに陶器一式の「弁慶と牛若丸」が展示されている。京の五条大橋に弁慶が立ち、牛若丸が宙を舞う作品である。

このコーナーには、「蘭陵王」という作品も一緒に展示されている。「蘭陵王」は雅楽を舞う舞人の作品で、なんと野菜一式で作られている。制作したのは富山県高岡市福岡町の人たち。福岡町では「つくりもん」と呼ぶ。作品を比べると、地域ごとの「一式」の違いに驚く。もちろん野菜

「つくりもん」の絆



は本物ではなくレプリカで、その精巧さも驚きだが、毎年秋になると、私は学生

制作・展示も行つよつになり、併せて山陰の「一式飾り」の紹介も行っている。

たちと「福岡町つくりもんまつり」へ調査に訪れている。3年前からは祭りに加して作品の

そこで今回は、2016年9月に我々が作った作品をご覧いただきたい。これは有名な「鳥獣戯画」のカエルとウサギの相撲の場面を立体的に表現し、「菜獣戯画」と名付けた。カエルには主にゴーヤを、ウサギにはカボチャなどを用い、背景の絵はコマで描いた。

この作品を作ったのは私と研究室の学生8名。全員、山陰各地の「一式飾り」のフィールドワークの経験があり、平田で陶器を用いて作品の制作体験をした者も多い。

調査を重ねるうちに、道具を用いる「一式飾り」も、野菜を用いる「つくりもん」も、用いる材料は違っても「見立て」の趣向は同じに思えてきた。そこで実際に野菜を見立てて作品を作るか、試してみることになった。

表現を思い出して応用し、祭り当日の朝に「菜獣戯画」を完成させた。

作品を共に制作した学生たちの姿が目に見え、卒業して社会人となったが、卒業後も集っては思い出話に花が咲く。彼らとは今も「つくりもん」の固い絆で結ばれている。地域の人たちも作品の共同制作を通して、お互いの絆を深め合っているに違いない。

「福岡町つくりもんまつり」では巨大な作品や、緻密に作り込まれたジオラマのような作品が多い中、我々の「菜獣戯画」は野菜の加工を避け、昔ながらの素朴な「見立て」にこだわり好評を得た。山陰の「一式飾り」にも親近感を覚えてもらえた。

福岡町では、古い日本旅館を借り切って1週間の合宿生活。早朝から深夜まで、野菜と格闘しながら作品作りに没頭した。皆で知恵を絞り、平田の針金の掛け方や骨組みの構造、直江の天井からの吊り下げ方、法勝寺のシンプルな

福岡町では1994年に一度だけ「つくりものサミット全国大会」が開催され、山陰から「平田一式飾り」と「法勝寺一式飾り」が出品されたという。私は「一式飾り」の調査研究を通して、再び地域間の絆を深めることができたと願っている。